

2025年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年7月10日

上場会社名 クオインタムソリューションズ株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2338 URL https://www.quantum-s.co.jp/  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名) Francis Bing Rong Zhou  
 問合せ先責任者 (役職名)社長室長 (氏名) 邵 贇 (TEL)03 (6910) 0571  
 四半期報告書提出予定日 2024年7月10日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年2月期第1四半期の連結業績(2024年3月1日~2024年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年2月期第1四半期	97	83.6	△126	-	△46	-	△45	-
2024年2月期第1四半期	53	△11.2	△107	-	△65	-	△66	-

(注) 包括利益 2025年2月期第1四半期 △113 百万円 (-%) 2024年2月期第1四半期 △103 百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年2月期第1四半期	△1.05	-
2024年2月期第1四半期	△1.62	-

(注) 当社は、2024年3月1日付で普通株式1株を3株に株式分割しております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年2月期第1四半期	407	8	△38.1
2024年2月期	1,149	18	△13.2

(参考) 自己資本 2025年2月期第1四半期 △155 百万円 2024年2月期 △151 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年2月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2025年2月期	-				
2025年2月期(予想)		0.00	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年2月期の連結業績予想(2024年3月1日~2025年2月28日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	716	642.4	7	-	17	-	17	-	0.38
通期	941	358.5	△182	-	△165	-	△165	-	△3.72

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 - 社(社名) - 、除外 - 社(社名) -

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2025年2月期1Q	44,007,093株	2024年2月期	43,609,593株
2025年2月期1Q	115,797株	2024年2月期	115,797株
2025年2月期1Q	43,593,823株	2024年2月期1Q	40,647,246株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

(注) 当社は、2024年3月1日付で普通株式1株を3株に株式分割しております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数(普通株式)を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
3. その他	12
継続企業の前提に関する重要事象等	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、ロシアによるウクライナ侵攻や円安に伴う原材料等の価格上昇に伴うインフレ懸念等が残るものの、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類に分類されたことに伴うインバウンド需要をはじめとする消費の回復等、経済活動は軌道に乗りつつあると考えられます。

このような状況のもと、当社グループは、前期より中核事業としてシステムソリューション事業の展開を電気自動車（EV）事業からAI関連の3事業、即ち、1)AIインフラ事業（現在はGPUサーバーの販売が中心）、2)AI機能を備えたゲームの開発、運営、パブリッシング。3)エッジコンピューティング、クラウドストレージ、クラウドゲーム、デジタルツイン(AIGC関連エンタープライズAIソリューション)にシフトしていることに加え、アイラッシュケア事業については黒字転換に注力しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間につきましては、売上高97百万円（前年同期比83.6%増）、営業損失126百万円（前年同期は107百万円の営業損失）、経常損失46百万円（前年同期は65百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失45百万円（前年同期は66百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

#### (システムソリューション事業)

##### 1) AIインフラ事業(AI Infrastructure)

GPUサーバー事業については、前期より大規模言語モデルを活用したいいわゆる生成型AIの開発が爆発的に進んできており、使用されるGPUの市場規模が急速に拡大しているため、2023年9月に当社はKAYTUS SINGAPORE PTE. LTD.（以下「KAYTUS社」という。）と販売代理店契約を締結し、AI開発向けGPUサーバーの販売を開始しております。本事業は前期より予定していた大口取引が順次完了しており、2024年第1四半期には2つのGPUサーバーの売上（54百万円）を計上することができ、第2四半期にはその他の取引の売上も計上する見込みです。当初計画からすると期ずれはしておりますが、第1四半期に続き、第2四半期も黒字計上する予定です。

なお、2024年5月だったニュージーランド大手Net事業運営会社の売上については、仕入れ並びに納品検収、売上代金回収は5月に完了しましたが、当社の売上計上基準に従い、同取引に関連する諸払い（運賃保険料の支払い）が6月となったことから、6月に売上計上する予定です。（純額計上売上高435百万円）。

また、5月20日付開示資料にて、2025年2月期におけるGPUサーバー販売の合計売上高見込額は1,209百万円としておりましたが、6月28日付開示資料のとおり、488百万円の減少が生じたため、修正後の売上高見込額は721百万円となりました。

その他の今後の取引予定につきましては、若干の月ずれはあるものの通期ベースでは予定通りに進んでおります。

##### 2) AIゲーム事業 (AI Games)

AIゲーム開発事業では、2023年12月に株式会社JP GAMESと資本業務提携契約を締結し、JP Games株式会社とのパートナーシップに初参入しました。2024年1月には、同社の株式2.5%を取得しました。出資以来、JP GAMES株式会社と共同でトリプルAゲーム「Project Jewel」を開発するなど、主にゲーム開発を進めてまいりました。このゲームには中東の要素が強く、中東の関係企業・政府から関心を寄せられました。7月10日に同ゲームのデモ機も完成し、今後本格的なゲーム開発に向けたスキームを固めて参ります。

##### 3) AIGC事業（法人向けAIソリューション/AIGC related Enterprise AI Solutions）

AIGC事業におきましては、前期CELABAI社と合弁でAIAVATAR(株)を設立し、AIアバター事業を展開する予

定でしたが、マーケット環境を勘案し、同社との合弁事業化は中止し、事業戦略の見直しを進めてまいります。現在も、AIGC関連のエンタープライズソリューションについて、潜在顧客に連絡を取り、製品に対するフィードバックを求めており、製品テストからのフィードバックは、生産製品の改善に役立ちます。しかし、この事業セグメントから実質的な収益を生み出すには、まだまだ遠い状況です。このセグメントは会社の成長に十分な可能性を秘めていると見ています。

以上のように当社はAI関連事業を展開しており、なかでもGPUサーバーなどの販売に関しては幾つかの大口取引が完了見込みで、第2四半期には売上・利益を計上し、黒字計上の予定です。同取引が第1四半期に期中には完了していないことから、当連結会計期間においては、大きな実績計上には結びついておりません。その結果、売上高は54百万円（前期比2,645.2%増）、売上構成比は56.1%（前年同期の売上構成比3.8%）となりました。セグメント利益（営業利益）は24百万円（前年同期は36百万円のセグメント損失）となり、前年と比べ60百万円の黒字転換となりました。

#### （アイラッシュケア事業）

当事業におきまして、前期中に不採算店舗を1店舗削減し、一方で商材の海外販売を強化するなど、現状の事業環境に合った事業規模での収支均衡を図っております。その結果、売上高は42百万円（前年同期比16.3%減）、売上構成比は43.9%（前年同期の売上構成比96.2%）となりました。サロンの人件費削減等の経費節減に努めましたが、セグメント損失（営業損失）は4百万円（前年同期は2百万円のセグメント損失）となり、前年同期と比べ1百万円の赤字幅拡大となりました。今期中の黒字転換を目指しております。

## （2）財政状態に関する説明

### （資産）

流動資産は、前連結会計年度末に比べて739百万円減少し、379百万円となりました。これは、主に前払金が116百万円増加した一方で、商品が482百万円、前渡金が413百万円減少したことによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて2百万円減少し、28百万円となりました。これは、主に無形固定資産が2百万円減少したことによります。この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて742百万円減少し、407百万円となりました。

### （負債）

流動負債は、前連結会計年度末に比べて732百万円減少し、399百万円となりました。これは、主に買掛金が484百万円、前受金が306百万円減少したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて0百万円増加し、0百万円となりました。この結果、総負債は、前連結会計年度末に比べて732百万円減少し、399百万円となりました。

### （純資産）

純資産は、前連結会計年度末に比べて9百万円減少し、8百万円となりました。これは、新株予約権の行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ54百万円増加した一方、利益剰余金が45百万円、為替換算調整勘定が66百万円減少したことなどによります。

## （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年6月28日に公表した業績予想から修正はございません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	137,107	157,809
売掛金	11,409	14,893
商品	523,677	41,512
前渡金	416,830	3,575
前払金	12,072	128,767
未収入金	169	25,348
その他	24,446	14,217
貸倒引当金	△6,029	△6,278
流動資産合計	1,119,683	379,844
固定資産		
有形固定資産	1,636	1,726
無形固定資産	2,713	-
投資その他の資産		
差入保証金	25,877	26,279
長期貸付金	25,000	25,000
長期立替金	657,417	684,739
その他	20	20
貸倒引当金	△682,417	△709,739
投資その他の資産合計	25,897	26,299
固定資産合計	30,248	28,026
資産合計	1,149,931	407,870

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	484,897	842
短期借入金	-	50,000
未払金	31,258	50,764
未払法人税等	2,510	725
前受金	591,340	284,721
預り金	1,910	2,945
その他	19,835	9,034
流動負債合計	1,131,752	399,032
固定負債		
その他	69	72
固定負債合計	69	72
負債合計	1,131,821	399,104
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,268,604	3,322,619
資本剰余金	2,851,419	2,905,433
利益剰余金	△5,920,229	△5,965,928
自己株式	△59,198	△59,198
株主資本合計	140,595	202,925
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△292,001	△358,223
その他の包括利益累計額合計	△292,001	△358,223
新株予約権	168,087	164,064
非支配株主持分	1,427	-
純資産合計	18,109	8,765
負債純資産合計	1,149,931	407,870

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年5月31日)
売上高	53,292	97,854
売上原価	10,256	12,760
売上総利益	43,036	85,094
販売費及び一般管理費	151,019	211,920
営業損失(△)	△107,983	△126,826
営業外収益		
受取利息	77	313
為替差益	44,774	79,729
貸倒引当金戻入額	634	—
その他	173	160
営業外収益合計	45,659	80,202
営業外費用		
支払利息	—	93
支払手数料	3,267	—
営業外費用合計	3,267	93
経常損失(△)	△65,590	△46,716
税金等調整前四半期純損失(△)	△65,590	△46,716
法人税、住民税及び事業税	420	410
法人税等合計	420	410
四半期純損失(△)	△66,011	△47,126
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△1,427
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△66,011	△45,698

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年5月31日)
四半期純損失(△)	△66,011	△47,126
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△37,661	△66,222
その他の包括利益合計	△37,661	△66,222
四半期包括利益	△103,673	△113,348
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△103,673	△111,920
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△1,427

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、前連結会計年度におきまして営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する当期純損失を計上し、営業活動によるキャッシュ・フローがマイナスとなりました。また、当第1四半期連結累計期間においても、営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する四半期純損失を計上しております。これらの状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を早急に解消するため、以下の施策を実施してまいります。

システムソリューション事業では、AIインフラ事業において、AI開発向けGPUサーバーの販売を開始しております。本事業は前期より予定していた大口取引が順次完了しており、当初計画からすると期ずれはしておりますが、第1四半期に続き、第2四半期も黒字計上の予定です。

AIGC事業については、第12回新株予約権により、資金調達の見通しがついておりますが、新体制の下、事業戦略の見直しを図っております。

又、AIを活用したゲーム開発事業の推進を進めており、中長期的な事業基盤の開発も並行して進めております。

アイラッシュケア事業では、前期に実施した店舗削減により、現事業環境下において最適の店舗展開としており、商材の拡販戦略強化により当期黒字転換を目指しております。

今後必要となる事業資金の確保については、第12回新株予約権を含めた資金調達で得た資金や手元資金の他、必要に応じた新たな資金調達を検討することで対応してまいります。

しかし、これらの対応策の実現可能性は、市場の状況、需要動向、他社との競合等の影響による成果を負っており、新株予約権者や投資家の意向や事業計画の達成如何にも左右されるため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、上記のような重要な不確実性の影響を反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

## I 前第1四半期連結累計期間(自2023年3月1日至2023年5月31日)

## 1. 配当支払額

該当事項はありません。

## 2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

## 3. 株主資本の著しい変動に関する事項

当社は、2023年4月25日付で、張玉珊(Cheung Yuk Shan Shirley)より第11回新株予約権の権利行使を受け、新株を発行いたしました。この結果、当第1四半期連結累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ40,549千円増加し、当第1四半期連結会計期間末において資本金が2,995,121千円、資本剰余金が2,577,936千円となっております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自2024年3月1日至2024年5月31日)

## 1. 配当支払額

該当事項はありません。

## 2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の

末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動に関する事項

当社は、2024年4月2日の第10回新株予約権の一部行使、及び、2024年5月10日の第三者割当による第12回新株予約権の一部が行使を受け新株を発行いたしました。この結果、当第1四半期連結累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ54,014千円増加し、当第1四半期連結会計期間末においては資本金が3,322,619千円、資本剰余金は2,905,433千円となっております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2023年3月1日至2023年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	システムソ リューション事業	アイラッシ ュケア事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	2,000	51,292	53,292	—	53,292	—	53,292
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	2,000	51,292	53,292	—	53,292	—	53,292
セグメント利益 又は損失(△)	△36,376	△2,837	△39,214	△319	△39,534	△68,448	△107,983

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△68,448千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自2024年3月1日至2024年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	システムソ リューション事業	アイラッシ ュケア事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	54,903	42,951	97,854	—	97,854	—	97,854
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	54,903	42,951	97,854	—	97,854	—	97,854
セグメント利益 又は損失(△)	24,025	△4,174	19,851	△327	19,523	△146,349	△126,826

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△146,349千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(重要な後発事象)

(第12回新株予約権行使による増資)

2024年6月7日に第三者割当による第12回新株予約権の一部が行使されております。その概要は以下のとおりです。

- |   |                |      |          |
|---|----------------|------|----------|
| 1 | 発行した株式の種類及び株式数 | 普通株式 | 350,100株 |
| 2 | 行使価額の総額        |      | 93,360千円 |

3 資本金増加額 47,259千円

4 資本剰余金増加額 47,259千円

上記の結果、2024年7月10日現在の普通株式の発行済株式総数は44,357,193株、資本金は3,369,878千円、資本剰余金は2,952,693千円となっております。

### 3. その他

#### 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度におきまして営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する当期純損失を計上し、営業活動によるキャッシュ・フローがマイナスとなりました。また、当第1四半期連結累計期間においても、営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する四半期純損失を計上しております。これらの状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を早急に解消するため、以下の施策を実施してまいります。

システムソリューション事業では、AIインフラ事業において、AI開発向けGPUサーバーの販売を開始しております。本事業は前期より予定していた大口取引が順次完了しており、当初計画からすると期ずれはしておりますが、第1四半期に続き、第2四半期も黒字計上の予定です。

AIGC事業については、第12回新株予約権により、資金調達の見通しがついておりますが、新体制の下、事業戦略の見直しを図っております。

又、AIを活用したゲーム開発事業の推進を進めており、中長期的な事業基盤の開発も並行して進めております。

アイラッシュケア事業では、前期に実施した店舗削減により、現事業環境下において最適の店舗展開としており、商材の拡販戦略強化により当期黒字転換を目指しております。

今後必要となる事業資金の確保については、第12回新株予約権を含めた資金調達で得た資金や手元資金の他、必要に応じた新たな資金調達を検討することで対応してまいります。

しかし、これらの対応策の実現可能性は、市場の状況、需要動向、他社との競合等の影響による成果を負っており、新株予約権者や投資家の意向や事業計画の達成如何にも左右されるため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、上記のような重要な不確実性の影響を反映しておりません。